



前立腺癌患者の性機能と QOL：日本人、米国人、日系米国人の比較研究

東北大学大学院医学系研究科・泌尿器科学分野 教授

荒井 陽一

【スライド-1】


この度は国際共同研究助成を頂戴し、感謝申し上げます。前立腺癌患者における性機能とQOLについて、日本人、白人、日系米国人の国際比較研究を行いましたのでその成果を発表します。

スライド-1

**前立腺癌患者の性機能：
日本人、白人、日系米国人の比較研究**

荒井 陽一¹⁾、並木 俊一^{1),3)}、Carlile RG²⁾、
深貝 隆志³⁾、Litwin MS²⁾

1) 東北大学大学院医学系研究科泌尿器科分野
2) University of Hawaii School of Medicine, Honolulu
3) 大崎市民病院泌尿器科
4) David Geffen School of Medicine at UCLA
5) 昭和大学医学部 泌尿器科



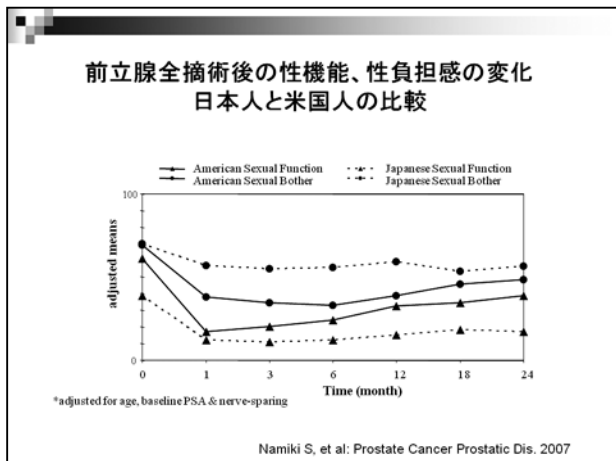
【スライド-2】

われわれはこれまでUCLAと共同で日米における前立腺癌患者QOLについてクロスカルチャー研究を行ってきました。スライドは、前立腺全摘術後の性機能と性負担感の推移を示します。米国男性の性機能は術後早期に低下しますがその後緩やかな回復傾向を示します。また性負担感も性機能と並行して変化しています。一方、日本人男性では術前より性機能が低く、回復も不良です。それにもかかわらず性負担感はあまり強くないことがわかります。すなわち日米で性機能障害への負担感 (bother) が異なる可能性を示唆します。

【スライド-3】

2005年のGlobal Sex Surveyによると、日本人のsexual activityは国際的にみても大変

スライド-2



スライド-3

性活動の国別比較

Average: 104 times / year

1位 Greece 138 times / year

:

11位 USA 113 times / year

:

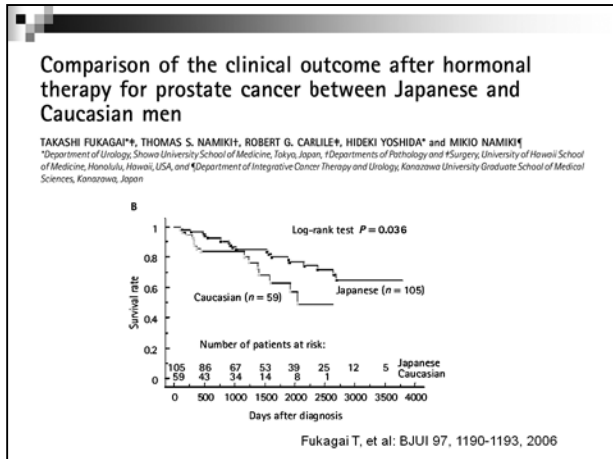
:

39位 Singapore 73 times / year

40位 Japan 45 times / year (booby)

2005 Global Sex Survey Results

スライド-4



低いことがわかります。この背景には、文化的あるいは社会的状況、性機能、パートナーの意識、など様々な因子が考えられます。

【スライド-4】

これは前立腺癌に対するホルモン療法の成績を日本人と白人で比較したものです。後ろ向き研究ではありますが、ホルモン療法の成績に関する人種差の可能性を示唆しています。このように前立腺癌のアウトカム研究では、欧米で報告される研究結果がそのまま日本人に外挿できない点が存在することに注意が必要と思われる。

【スライド-5】

そこで限局性前立腺癌患者において、白人、日本人、日系米国人の性機能・QOLを比較する研究を計画しました。これまでの日米の比較研究をベースにして、特に今回は遺伝的に日本人であるが米国で生活する日系人に焦点を当てることにより、人種差と文化的差異を探ることを最大の目的としました。

【スライド-6】

対象は新規に限局性前立腺癌と診断された男性808例です。内訳は、東北大と関連施設で診断された日本人男性 (JP) 412例、UCLAにおける白人男性 (CM) 352例、ハワイのQueen’s Medical CenterまたはUCLAにおける日系米国人男性 (JA) 44例でした。性機能・性負担感はUCLA Prostate Cancer Index (PCI) 調査票で評価しました。UCLA PCIはオリジナルの英語版のみでなく、日本語版においてもその妥当性が確

スライド-5

目的

限局性前立腺癌患者において、白人、日本人、日系米国人の性機能・QOLを比較検討する。

スライド-6

方法

- 対象 n=808
 - 新規に限局性前立腺癌と診断された男性
 - 日本人 JP: 東北大学 (n=412)
 - 白人 CM: UCLA (n=352)
 - 日系米国人 JA: UCLA /Queen’s med. center (n=44)
- 性機能・性負担感の評価
 - UCLA PCI (性機能, 性負担感)
 - スコアが高いほどQOLが良い

立されています。性機能・性負担感ともにスコアが高いほどQOLが良いことを示します。

【スライド-7】

患者背景を示します。日本人、日系米国人では有意に高齢でした。日本人では病期T2がやや多く、合併症を有する頻度も多い傾向が認められました。

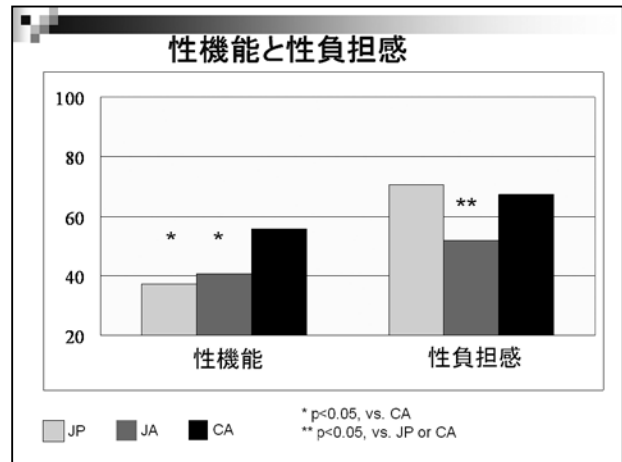
スライド-7

Patient characteristics (n=808)			
	JP (n=412)	CA (n=352)	JA (n = 44)
Age	67.2 ± 5.5	62.1 ± 7.9	67 ± 6.7
PSA	8.7±5.9	8.0±9.0	7.1 ± 5.9
T1 (%)	239 (58)	305 (71)	31 (70)
T2	148 (36)	117 (28)	13 (30)
T3	25 (6)	5 (1)	0 (0)
GS6 ≥	171 (42)	303 (76)	25 (57)
GS7 ≤	241 (58)	102 (24)	19 (43)
Comorbidity			
0	152 (37)	133 (38)	16 (36)
1	113 (27)	131 (37)	17 (39)
2	77 (19)	56 (16)	5 (11)
3 or more	70 (17)	32 (9)	6 (14)

【スライド-8】

各群の性機能・性負担感を示します。性機能では日本人男性と日系米国人男性が白人男性に比して有意に不良でした。一方、日本人男性の性負担感は良好であり、日系米国人男性のそれは最も不良でした。すなわち日本人では性機能と性負担感が大きく乖離していることが示されています。

スライド-8



【スライド-9】

スライドは性機能各項目についてさらに詳細に解析したものです。各項目で「不良」と回答された頻度を示しています。性機能に関しては日本人と日系米国人男性の障害頻度が大変近似しており、白人に比べて障害度が高いことが示されています。一方、性負担感ではQOL不良と回答する割合が最も高いのは日系米国人男性でした。次いで白人、日本人でした。

スライド-9

Reporting <i>poor</i> sexual function by ethnicity			
	CA	JA	JP
Sexual desire	49 (%)	73 (%)	96 (%)
Ability to achieve erection	47	82	95
Orgasm	38	68	62
Erection quality	32	34	64
Erection frequency	31	64	61
Morning erection	71	91	91
Intercourse	55	77	83
Overall sexual function	50	86	96
Sexual bother	47	64	11

【スライド-10】

日系米国人男性に関してはさらに、パートナーが日本人か日本人以外かに分けて詳細に検討してみました。性機能については両者で差がないにもかかわらず、日本人以外のパートナーを持つ患者群で性負担感が有意に高いことがわかりました。このことは一部パートナーのQOL

が反映していることを推測させる結果と考えられます。

【スライド -11, 12】

考察とまとめです。

1) 性機能に関する人種差に関する文献では、ヒスパニック系米国人ではアフリカ系米国人よりも性機能が不良という報告がなされています。

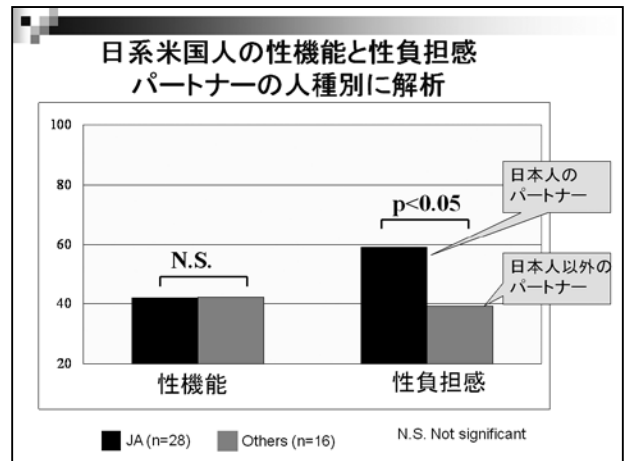
2) またアフリカ系米国人の性機能は白人と比べて差がないという報告もあります。

3) アジア人の性的活動は欧米人と比して低いが、性的満足度には差がないと報告されています。

4) 日本の Hisasue らは、陰茎硬度は、性行為頻度に関するものの、日本人パートナーの性的満足度とは関係しなかった、と報告しています。

今回の研究結果は、性機能とそれに関連するQOLには人種ならびに文化的差異があることを強く示唆するものでした。今後、欧米における研究成果の解釈には一定の注意は必要と思われます。また同時にこの領域においては、日本人固有の研究の蓄積が重要と思われました。

スライド-10



スライド-11

考察

- Hispanic patients with PCa reported worse sexual function than African Americans and CA. (Tracy L. Ethnicity & Disease 2005)
- African Americans patients and CA were comparable for sexual function and bother at baseline. (Jayadevappa R. Cancer 2007)
- Although the frequency of sexual activity is lower in Asia than in the West, satisfaction rate with the sexual frequency among Asian people is comparable with that of Western subjects. (Nicolosi A. BJU int 2005)
- Although male erectile rigidity contributes to the frequency of sexual intercourse, it is not necessarily associated with a satisfactory sexual life in the Japanese men's partners. (Hisasue S. Urology 2005)

スライド-12

結論

- The patterns of sexual function reported by JA were remarkably similar to those reported by JP.
- JA showed a trend toward more sexual distress from their sexual function than did JP.
- Despite similar sexual function JA partnered patients were significantly less likely to report sexual bother scores than other races partnered patients.
- We posit that racial/ethnic differences in completing the QOL surveys explain the differences in sexual activity profiles among the JP, CA and JA men with PCa.